

道徳だより



令和6年2月
京都市立道徳教育研究会
広報部
(研究大会号)

テーマ:「やってみようかな」を見つける(研究大会の概要)

育成 部会

【 授業者 】 宮田 勝行 教諭(鳳徳小) 「いじわる」
中心発問「主人公の『たあぼう』は、どのように言えばよかったのでしょうか。」



【 事前授業が難しい育成学級における「研究の在り方」と、パペットの有効性 】

- ◇ 学校、学級ごとに実態が大きく異なるため、汎用性のある授業実践は難しい。その中で、他校で、担任ではない指導者でも行えた貴重な提案授業。
- ◇ パペットを介すことでの自己内対話、アウトプットの効果は絶大。
- ◇ 絵本等を活用する際の、読み方、教材分析を丁寧に行うことが大切。内容項目から中心発問を精選。

低学年 部会

【 授業者 】 井保 若菜(七条小) 「お月さまとコロ」
中心発問「コロはどうして、ギロにあやまろうときめたのだろう。」



【 児童の「出会い」と「受け取り」を大切にするために 】

- ◇ 「めあて」で使う言葉の精選 (正直 → 素直 → わがまま) …すべては児童にとって分かりやすい、スムーズな思考につながるものとなるよう検討することの重要性。
- ◇ 児童実態によって、予想される児童の反応が異なる。事前をし、ゆさぶりや補助発問を十分に検討していても、予想と違った方向へ行くこともある。目の前の子どもと向き合い、丁寧に聞き取ったり、想いを引き出したりする中で、心と言葉に耳を傾ける、「聴く」の大切さを再確認。

